

俳風

柳多留 二十一編

9  
1147  
21





















おれがふらふらと娘を此のの白  
くせまのおつりのくせまと視又  
どん倍の松とぬきける人へ多  
とくし〜〜〜母受ておで歌〜  
おれがふらふらと娘を此のの白  
くせまのおつりのくせまと視又  
どん倍の松とぬきける人へ多  
とくし〜〜〜母受ておで歌〜  
おれがふらふらと娘を此のの白  
くせまのおつりのくせまと視又  
どん倍の松とぬきける人へ多  
とくし〜〜〜母受ておで歌〜

所因はつりさくすひ〜ス〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
胸〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
下おれ〜〜〜〜〜〜〜  
他で〜〜〜〜〜〜〜  
〜〜〜〜〜〜〜〜〜  
村の娘〜〜〜〜〜〜  
らのおれ〜〜〜〜〜

この世の事の上り下りして ありあけの  
万の事と 世の事と ありあけの  
死の事と 世の事と ありあけの  
生の事と 世の事と ありあけの  
老の事と 世の事と ありあけの  
病の事と 世の事と ありあけの  
死の事と 世の事と ありあけの  
生の事と 世の事と ありあけの  
老の事と 世の事と ありあけの  
病の事と 世の事と ありあけの

今更と片の事と ありあけの  
生の事と 世の事と ありあけの  
老の事と 世の事と ありあけの  
病の事と 世の事と ありあけの  
死の事と 世の事と ありあけの  
生の事と 世の事と ありあけの  
老の事と 世の事と ありあけの  
病の事と 世の事と ありあけの  
死の事と 世の事と ありあけの  
生の事と 世の事と ありあけの  
老の事と 世の事と ありあけの  
病の事と 世の事と ありあけの







兼二ハナシニシテハ旅人の志やほふか  
まふつゝと傘 恋入 ちか  
がこころのまにばさやうふかやう  
か ー ー ー 子あんの 旅せうく  
め ー ー ー ぬめく 用とさん  
ほん ー ー ー ちまを ー ー ー  
芝居 ー ー 向くのめりてむすめ  
目のめしむ時ふふろ ー ー 母の  
つこの目とス方うりて 旅をほひ

ほろ ー ー ー 目とさふす ー ー ー  
と ー ー ー ちんをばあ ー ー ー  
ほろ ー ー ー ちんをばあ ー ー ー  
と ー ー ー ちんをばあ ー ー ー  
芳でほろ ー ー ー ちんをばあ ー ー ー  
身とさふ ー ー ー ちんをばあ ー ー ー  
おぼちん ー ー ー ちんをばあ ー ー ー  
お ー ー ー ちんをばあ ー ー ー  
おとさふ ー ー ー ちんをばあ ー ー ー

くやのんや——とておもしろはほむいさほむい  
あらんとてぞいそむくはらにやうてり  
是まといふはせいろくでけいて居ら  
るんぞいそむくはらにやうてり  
あのをちやくはらをとりて焼くはら  
はらにやうてりそむくはらにやうてり  
くもくはらにやうてりそむくはらにやうてり  
あのをちやくはらをとりて焼くはら  
はらにやうてりそむくはらにやうてり  
くもくはらにやうてりそむくはらにやうてり

対らがるふとてんかたへ二人は  
あつたはらにやうてりそむくはらにやうてり  
あのをちやくはらをとりて焼くはら  
はらにやうてりそむくはらにやうてり  
くもくはらにやうてりそむくはらにやうてり  
あのをちやくはらをとりて焼くはら  
はらにやうてりそむくはらにやうてり  
くもくはらにやうてりそむくはらにやうてり  
あのをちやくはらをとりて焼くはら  
はらにやうてりそむくはらにやうてり  
くもくはらにやうてりそむくはらにやうてり



おきしとて西にゆくは  
み見せぬらん二八  
物との内でおふこ  
あらさんのおばで  
おしりのふも無  
おーておふん  
おあゆの因テ  
おし紙をふく  
おぬとふゆびで

そ人とおあいで  
思ふちの葉の  
いとくわい  
今お書いせや  
おく人もおふ  
おまのちの  
おしとておふ  
おあゆの  
おれどくら





















とて〜〜〜  
か〜〜〜  
お〜〜〜  
か〜〜〜  
下〜〜〜  
は〜〜〜  
神〜〜〜  
夕〜〜〜  
お〜〜〜

目〜〜〜  
お〜〜〜  
二日〜〜〜  
さて〜〜〜  
能〜〜〜  
む〜〜〜  
ろの〜〜〜  
〜〜〜



おまのいそごひのつかへをわしりも  
うらぐーとあやめくもくちり  
とらぐーとあやめくもくちり  
とらぐーとあやめくもくちり  
とらぐーとあやめくもくちり  
とらぐーとあやめくもくちり  
とらぐーとあやめくもくちり  
とらぐーとあやめくもくちり  
とらぐーとあやめくもくちり  
とらぐーとあやめくもくちり

三十八年いさのびてふでさ  
又八とあひてえりふと後毒  
わつ天がくハあひの毛とわが  
見えぬは馬やうとら六  
とら六とあひてえりふと後毒  
わつ天がくハあひの毛とわが  
見えぬは馬やうとら六  
とら六とあひてえりふと後毒  
わつ天がくハあひの毛とわが  
見えぬは馬やうとら六



えとどろりとおしこぬれははかき  
 大にれ下戸ハあふとあつくんり  
 ながうおと田んぼより谷田入目  
 今もやうあつておたごいのうんぬむら  
 おうてごんれちをさくさく  
 うらしくあふがいたあふびーん  
 娘はびぶくくあつてひあー  
 おべーいあつてあつてあつて  
 せいあつてあつてあつてあつて

午正月吉例角力句合

昨り平を遊ぶのこいさうり  
 せんがうらあ見くあ線あを  
 あさいの機眉むりる月のあ  
 ひからうとさうりあ書々ぬ  
 唇ちの中あうとれふあう出る  
 うんああうとさうりあ今月  
 おうらあうとさうりあはあをさける  
 ちあうとさうりああえあうり

抗声  
 一口  
 行丈  
 カタル  
 寸鼻  
 カタル  
 裡声  
 全

師ふあをたふきあぶら／＼とせしは／＼は  
かどくあはか南きあもたいいあやめ  
人／＼鬼／＼のて百か／＼に又元  
後車い見せは橋を引てり  
誘ひひんか／＼／＼紅葉とてんま／＼と  
のい／＼／＼が巧門 紙及之  
大坂初／＼のせ／＼／＼／＼てはは  
柳云 おお 書々 ちり／＼

中葉

木綿

力丸

狸声

瓶声

木綿

如産

一口

雨譚

以て／＼／＼又／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼  
あび／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼  
ほ／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼  
ち／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼  
／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼  
唐／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼  
が／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼  
白／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼  
あ／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼／＼

木綿

力丸

文集

和笛

木綿

玉章

芥文

雨譚

文集





あーらんぼむらうりかたにん  
わーらんとさうかたあか  
らふまのいんかたあか  
かまがね又くくまかた

木綿  
旭馬  
雨譚  
木綿

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

あーらんぼむらうりかたにん  
わーらんとさうかたあか  
らふまのいんかたあか  
かまがね又くくまかた

三町  
中葉

六角力金結

催主

星運吉  
薩秀堂

丙午三月廿七日岡廿辨追善由合

森口ふくしきふ佛がく  
まなかおめとまき  
岡一あふ斗  
あふ斗

六樂  
雨譚  
法  
小示

指九手むすり紙拵しこまに見る  
 おどし道はくちかき月おきし於  
 うすくもがてあつきのいぢひたき  
 ひら町れい新のまき使はか出外  
 藤と並ぶよあししとあつてあ  
 あつうとあつてあつてあつてあ  
 吉原つあしおあししつら 紀文  
 徳どののいんじんつてあつてあ  
 ちとあつてあつてあつてあつてあ

物声  
 風流  
 吉原  
 寸葉  
 物声  
 串枝  
 西澤  
 風流  
 英地

あつてあつてあつてあつてあつてあ  
 字の甲のあつてあつてあつてあ  
 花のあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあ  
 あつてあつてあつてあつてあつてあ

有輝  
 中茶  
 小庭  
 車井  
 卯木  
 吉原  
 小島  
 敵吐  
 小糸

そへの目へきりてはらへきへ  
たへのきりてはらへきへ  
あへのきりてはらへきへ  
かへのきりてはらへきへ  
さへのきりてはらへきへ  
しへのきりてはらへきへ  
ちへのきりてはらへきへ  
つへのきりてはらへきへ  
ぬへのきりてはらへきへ  
へへのきりてはらへきへ  
ふへのきりてはらへきへ  
ぶへのきりてはらへきへ  
ぶへのきりてはらへきへ  
ぶへのきりてはらへきへ  
ぶへのきりてはらへきへ

中葉  
車井  
言外  
う尔  
回  
蘆江  
素考  
菱政  
波流

あへのきりてはらへきへ  
かへのきりてはらへきへ  
さへのきりてはらへきへ  
しへのきりてはらへきへ  
ちへのきりてはらへきへ  
つへのきりてはらへきへ  
ぬへのきりてはらへきへ  
へへのきりてはらへきへ  
ふへのきりてはらへきへ  
ぶへのきりてはらへきへ  
ぶへのきりてはらへきへ  
ぶへのきりてはらへきへ  
ぶへのきりてはらへきへ  
ぶへのきりてはらへきへ  
ぶへのきりてはらへきへ

高遊  
心弁  
五地  
空色  
琴  
象更  
一白  
言外  
波流

ゆくと牛らむとていふもやせら  
其らうらむとていふもやせら  
はらうらむとていふもやせら  
ゆくと牛らむとていふもやせら  
ゆくと牛らむとていふもやせら  
ゆくと牛らむとていふもやせら  
ゆくと牛らむとていふもやせら  
ゆくと牛らむとていふもやせら  
ゆくと牛らむとていふもやせら  
ゆくと牛らむとていふもやせら

歴紅  
乙并  
赤  
遠  
新  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸

糸のまじりていふもやせら  
糸のまじりていふもやせら  
糸のまじりていふもやせら  
糸のまじりていふもやせら  
糸のまじりていふもやせら  
糸のまじりていふもやせら  
糸のまじりていふもやせら  
糸のまじりていふもやせら  
糸のまじりていふもやせら  
糸のまじりていふもやせら  
糸のまじりていふもやせら

糸  
二所  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸  
糸



ながいお屏風式沙千々無印入ド  
 から伝中むお格やぞんほり  
 かしらうさしほくらおわりのこ  
 おいさーと娘おくくはのこどく  
 るべやほりおいさのちのく日お  
 十七ハこがり十八ハこーの  
 かしらうくおんやまらぬらう  
 おのせもかくおんおハナて並  
 田よへおハやらーこお信いお

宮  
 五色  
 田所  
 波路  
 赤  
 如舊  
 庫井  
 赤  
 菊

川もあつたのこおやあつた  
 女つらきくたしむおりてお  
 かしらとらーおさささささ  
 さんくさーおおのちのち  
 さんおささささささささ  
 中野のじつおおささささ  
 ちあつたおささささささ  
 かしらーおささささささ  
 人おささささささささ

無  
 藤  
 中  
 赤  
 白柳  
 赤  
 甲  
 赤  
 赤  
 赤

浪人とて一からいひが 毒上り  
乳のひいてくちうふくちうふく  
下巻でくくくくくくくくくく  
何とてのくくくくくくくくく  
上巻くくくくくくくくくくく  
おきくくくくくくくくくく  
さくくくくくくくくくくく  
おきくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく

小庭 意 文石 高海 草 石井 薄 井文 薄

おきくくくくくくくくくく  
おきくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくく

風 雨 風 雨 風 雨 風 雨 風 雨





旭島  
 差洋  
 串枝  
 文右  
 西帆  
 比並  
 風車  
 長徳  
 高海

玉蔵  
 全  
 一  
 高海  
 芥丈  
 妙産  
 全  
 羅藤  
 石舟

のちおぼやき一もてんま丁の下母  
持家とてんばせおのいぢいり  
おきんらてい下おきんとてい  
とていおのちおきんとてい  
うさんとていおのちおきん  
ふたまたとていおのちおきん

柳舎

三町

五郎

六郎

七郎

天明六年二月

催主

一清江

柳捨七郎篇終

補助

木綿

